

さんぽみち

2011年 春号

Vol.22

発行・医療法人社団 松弘会 三愛病院



『さくら咲く』三愛フォトクラブ 小林久雄

ご挨拶

『これからの三愛病院：さらなる提携、病診連携を深めていきます』
昨年12月当院済陽理事長は、循環器分野において全米患者満足度トップ5の『アーカンソーハートホスピタル』（病院長：ブルース・マーフィー医師）と医療連携を行い、循環器プロジェクトがスタートし、2月1日より私、濱田が赴任しお世話になることとなりました。また、循環器領域においてより効率的な臨床ワークフローの確立を目指し、3月27日から4月2日までアーカンソーハートホスピタルにて三愛病院職員の循環器研修を行いました。

今までの循環器科も佐藤院長、中田副院長の献身的な診療スタイルにて、地域に密着した急性期病院として頑張ってきました。循環器救急においては、重症心不全、狭心症・急性心筋梗塞などの虚血性心疾患、不整脈、末梢血管疾患に対し、中田副院長が主になりカテーテル治療を駆使し治療して参りました。冠動脈はもちろんのこと、頸動脈、腎動脈、下肢動脈に対しても適応があれば積極的に治療を行っています。最近では、足趾の変色や安静時疼痛、また潰瘍を認めるような重症下肢虚血の患者様にも血流不全に対してはできる限り早期から介入し下肢切断に至るような状況を1人でも減らすことができるよう血行再建治療にも力を入れています。今後は微力ながら私も参加させていただき、さらにより多くの患者様のお力になれればと思っています。

そして、これからは循環器チームが今まで以上に地域医療連携にも力を入れ地域密着型の診療を目指し、スタッフによる実際のアメリカでの最先端の医療・治療を学び、さらにグローバルで効率的な循環器臨床のワークフローを習得し、三愛病院での実際の診療に取り入れていくことを目指していきます。医師・コメディカル・技師・事務などのスタッフが一丸となり、よりよい診療スタイルを確立することで、理想のチーム医療ができてくるのではないかと今から楽しみに期待しております。それによりスタッフ自身も自信が付き、仕事に対してより誇りが持てるようになれば、仕事に対するモチベーションの向上、またスタッフ満足度の向上に繋がります。そしてよりよい診療を行うことで、患者満足度の高

い病院とされるよう邁進していくつもりです。

また当院での誇るべき診療の一つに最新の機器を用いた診断技術の高さがあげられます。昨年8月に1.5テスラのMRIが稼働し、最近では病診連携による紹介と設備共同利用のおかげもあってMRIの件数が増加し、126床の病院でありながら、今年8月には3.0テスラのMRIを追加導入する予定となっております。CTも64ch冠動脈造影は、年間1800例の施行例があります。心臓超音波検査も年間2700例で、頸動脈・腎動脈を含めた末梢動脈の超音波検査では、年間1500例を超えます。それには救急患者様をお断りしないという診療、看護スタイルも関連しますが、やはり放射線科技師17名及び、検査科スタッフ26名のモチベーションの高さの表れだと思っています。

奇しくも2011年3月11日の東日本大震災においても法人の建物は損傷なく、また、12年前に災害時等を想定して装備した2台の自家発電装置により、停電時でも手術、検査、カテーテル等を平常通り行う事ができました。

水道水の放射能汚染に対しても、128mの深さの井戸水の専用水道を使用しており、秩父の65年経った名水が提供できております。この水は酸化還元電位が137mvの値を保っており、ピレネー山脈のルルドの聖水に近い値です。東京・大阪の水道水565mv～750mvよりかなり安全で、六甲のおいしい水270mvの半分程度の電位です。

最後に、ガンマナイフも7年を迎え最新鋭のパーフェクションが導入されます。今まで困難かつ治療効果の悪かった疾患も安全かつ快適に行えるようになります。

4月より新たに野田循環器医も赴任し、循環器分野に関して、今まで以上に皆様のお役に立てますよう努力して参ります。どうぞ指導の程よろしくお願ひいたします。

医療法人社団 松弘会 三愛病院

循環器科 はまだ 濱田 英明



病院の理念

- ・患者さんへの愛と思いやりの心
- ・地域を愛する心
- ・医療に奉仕する心

基本方針

- ・患者さんの全身管理を念頭におき早期発見・早期治療を行い、質の高い医療を実践します。
- ・救急病院として、24時間救急診療に応じる体制を維持できるよう努力致します。

患者さんの権利

当院はすべての患者さんには、以下の権利があるものと考えます。これらを尊重した医療を行うことをめざします。

1. 個人の尊厳
2. 平等・安全な医療を受ける権利
3. 知る権利
4. 自己決定権
5. プライバシーの権利
6. 代行者による権利

※詳しい内容に関しては、院内の掲示をご覧ください。



HHPJ (Heart Hospital Partners of Japan) との循環器プロジェクトスタート

三愛病院は、HHPJ (Heart Hospital Partners of Japan) と提携し、共同で循環器プロジェクトをスタートさせました。

HHPJは世界でも優れた心臓血管病院であるAHH(アーカンソーハートホスピタル)の臨床経験と、チーム医療のノウハウを地域の基幹病院に提供することにより、医療の質の向上、効率化をおこなうプロジェクトを日本全国3ヶ所の病院で行ってきました。三愛病院は4ヶ所目の提携先となります。

HHPJとの提携により、AHH、国内各提携先への研修、院内勉強会を開催することにより、チーム医療の大切さを学び、医療の質の向上、効率化につなげ、しいては患者満足度アップにつながると思います。



写真上…マーフィー院長(右)
済陽理事長(左)



アーカンソーハートホスピタル

また同時に、三大死因の一つである心疾患の潜在的患者が重症化する前の、早期発見、早期治療を目指し、心疾患に対する勉強会も開催していきたいと考えています。

2月より新たに濱田先生が常勤医師として勤務されており、さらに4月からは野田先生が同じく常勤医師として勤務されています。これまで三愛病院の循環器カテーテル治療を一人で支えてきた中田先生とあわせて循環器カテーテル治療可能な常勤医師は3名となり、県内でも屈指の治療体制が整います。

HHPJとの提携により、更にスタッフ一丸となり地域に根ざしたハイレベルな治療を行っていききたいと思います。



左上：恵寿病院との意見交換会
左下：院内勉強会の様子



カテーテル治療の様子(濱田先生)

■三愛病院

外科・整形外科・脳神経外科・内科・循環器内科・消化器内科・消化器外科・放射線科・形成外科・呼吸器外科・泌尿器科・麻酔科・歯科・リウマチ科・心臓血管外科・皮膚科・リハビリテーション科 ○一般病床：126床

〒338-0837 埼玉県さいたま市桜区田島 4-35-17

TEL: 048-866-1717 FAX: 048-866-1865

URL: <http://www.sanai.or.jp>

E-mail: byoin@sanai.or.jp



三愛病院 実績

主な検査・手術件数 (H22年3月～H23年2月の実績)

- 救急搬送：285名(月平均)
- 外来患者数：296名(日平均)
※休日、夜間を除く
- 入院患者延べ数：3,553名(月平均)
- 平均在院日数：13.85日
(H22年12月1日～H23年2月28日)
- 心臓カテーテル：626例
(内 心臓PTCA：233例)
- OPTA(心臓以外のカテーテル治療)：64例
内訳 下肢PTA…43例
頸動脈PTA：2例
腎PTA：19例
- 手術総数：1,498例
- ガンマナイフ治療：537例
- 内視鏡検査(胃)：211例
- 経鼻内視鏡検査：1,985例

広報部委員長

小林久雄

広報委員

宮崎純子 佐々木一成 山之口愛奈 嘉生佐和子
内山亜矢子 佐藤晴美 磯貝宏美 野澤誠 細野明子

■併設 さいたまガンマナイフセンター

TEL: 048-710-8100 FAX: 048-710-8101

E-mail: sgkc@gamma.jp

■認知症専門病院トワーム小江戸病院

精神科・内科 重度認知症デイケア(医療保険適用)

○認知床病床(5-6階)：100床

○身体合併症病床(3-4階)：100床

〒350-0848 埼玉県川越市下老袋 490-9

TEL: 049-222-8111 FAX: 049-222-8128

◆介護老人保健施設トワーム指扇

入所：100床 通所リハビリテーション：30名

〒331-0074 埼玉県さいたま市西区宝来 591

TEL: 048-620-6660 FAX: 048-620-6680

◆介護老人保健施設トワーム熊谷

入所：100床 通所リハビリテーション：40名

〒360-0017 埼玉県熊谷市小曾根 337-1

TEL: 048-599-3377 FAX: 048-599-3378

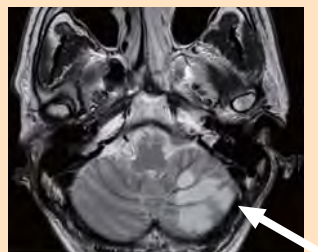
特集 脳ドックを受けてみませんか？②

前回、当院の脳ドックに関する概要をお知らせいたしました。今回は、脳疾患とはどのようなものかのご説明をさせていただきます。

脳梗塞

脳梗塞とは、脳血管が閉塞したために起こる疾患です。脳梗塞の部分は酸素と栄養が行き渡らなくなるために脳細胞が壊れてしまいます。そのため麻痺や言語障害などの症状が出現する疾患です。

- 脳塞栓：心臓にできた栓子が脳の血管をふさぐ（急激）
- 脳血栓：動脈硬化のため血小板がかたまった血栓（ゆるやか）



脳梗塞

脳出血

脳出血とは、脳内部の動脈が切れ、出血することで生じる疾患です。脳出血が生じることで脳実質が破壊されて脳細胞が死んでしまいます。そのため麻痺や言語障害、意識障害などが出現する疾患です。

- 脳出血：ミシン糸くらいの脳血管が破れて出血
- くも膜下出血：脳動脈にできたコブが破れ、くも膜下腔に出血



脳出血

脳動脈瘤

脳腫瘍

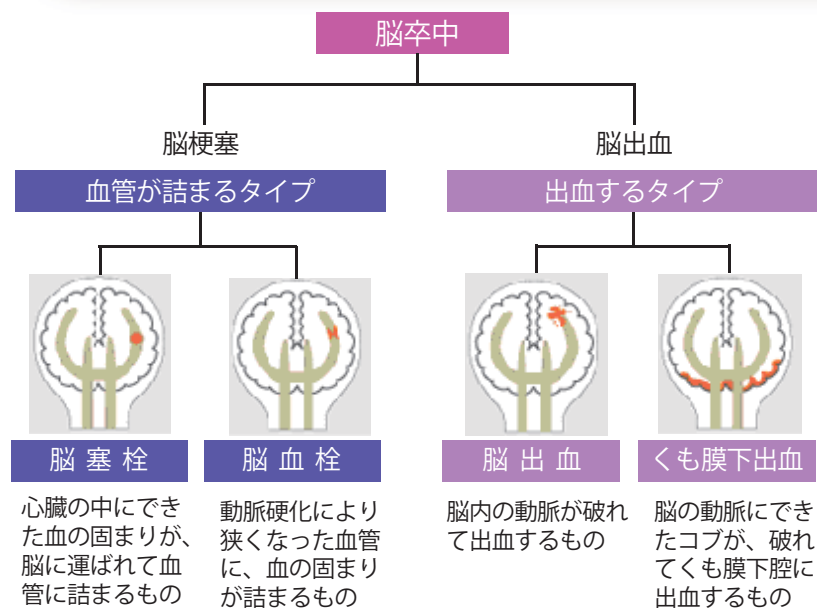
頭蓋内に発生する腫瘍の総称で、脳に発生する腫瘍および髄膜、脳神経、下垂体由来の腫瘍のことをいいます。早期の段階では腫瘍が小さく、無症状のまま進行することが少なくありません。早期発見には脳ドックが有効です。

血管奇形

高血圧の既往のない小児や若年者などの脳出血の場合には脳動静脈奇形や血管腫などの血管奇形が原因になります。

脳機能障害

脳血管性痴呆、アルツハイマー病、パーキンソン病などがあります。



脳卒中危険度テスト

- 1 年齢は60歳以上ですか 5点
- 2 血圧は高いですか 4点
(160mmHg以上、下95mmHg以上)
- 3 親族が脳卒中あるいは高血圧 3点
- 4 糖尿病がありますか 2点
- 5 動物性脂肪 塩分の取りすぎ アルコールを飲みすぎ 2点
- 6 肥満体ですか 1点
- 7 ヘビースモーカーですか 1点
- 8 不整脈がありますか 1点
- 9 最近物忘れが多いですか 1点
- 10 ストレスが多いですか 1点

8点以下 現在青信号
9点以上 脳ドックを受けることをおすすめします

ちょっと一息 旬の食材レシピ ~春には苦みを盛れ~

冬の終わりから早春にかけて田んぼや山野には春特有の苦みと香りを持った山菜がたくさん顔を出します。

春の山菜には抗酸化力の高いポリフェノール群が豊富に含まれています。ふきのとうに含まれるフキノール酸は花粉症の予防や咳止めに効果があるといわれています。

苦みや香りを含んだ春の山菜を食べて、冬の間体内に溜まった老廃物や脂肪を排出し、活動的な体に目覚めさせましょう。冬眠から目覚めた熊は最初にふきのとうを食べるとか・・・??



ふきのとうの佃煮



(材料)

- ふきのとう・・・2パック
- 砂糖・・・・・・・・大3
- めんつゆ・・・・・・・・50cc
- 酒・・・・・・・・50cc
- みりん・・・・・・・・50cc

(作り方)

ふきのとうをよく洗い、鍋に調味料とふきのとうを入れ、ふたをしてして強火で煮る。沸騰したら、かき混ぜながら水分がなくなるまで煮詰める。

(管理栄養士：松崎絵美)

部署紹介

●● ME科

ME科は現在、院内2名体制で業務を行っています。本来は、臨床工学科と呼んでいただきたいのですが、一般に院内では『MEさん!』と呼ばれています。MEとはMedical Engineerの略で、医用工学という意味を持ちます。様々な工学技術を医学に応用することを仕事の中心としています。



我々は『医師の指示の下に、生命維持管理装置の操作及び保守点検を行うこと』を、主な業務とする医療機器の専門職種として位置づけられています。

『臨床工学技士の業務とは』

人工心肺装置、補助循環装置、除細動器、ペースメーカー、各種生体情報監視装置といった、循環器に関わる医療機器の扱い、人工呼吸器、在宅酸素療法などといった、呼吸器、酸素療法に関する医療機器の扱い、血液透析、血漿交換などといった、腎機能に関わる、各種の血液浄化装置の操作、院内にある医療機器の集中管理を中心とした、効率的な医療機器の運用や、保守・点検といった、ME機器管理業務を行っています。

病院全体の中でもさまざまな部署、各科の先生方と連携をとることの多い業務範囲の広い仕事であることが特徴です。その中でも特に循環器科の先生方との関わりは深く、心臓カテーテル治療のサポートやペースメーカーの植え込みのサポート、外来フォローなども行っています。医療機器の不具合や故障、緊急手術に対応できるようにこれからも努力していきたいと考えています。

三愛病院の災害対策

3月11日の東日本大震災にて、被害を受けた方およびご家族の方々に心よりお見舞い申し上げます。

この度の未曾有の大震災にて、多くの医療機関が計画停電の影響を受ける中、当院では、独自にライフラインを確保できるシステムを完備しているため、緊急性が高く、電力を大量に必要とする手術・検査を予定通り行うことができました。

災害時を想定し、病院の消費電力のほとんどをまかなうことができる2台の常用自家発電装置を備え、燃料となる重油を1万5千リットル常備しているため、約1ヶ月病院設備を稼働させることが可能となっています。そのほか、都市ガスパ이프の破損にも対応できるよう大型プロパンガスで対応、水道は地下128メートルの深さの井戸水の専用水道を使用しています。この井戸水は秩父の65年経った名水で、酸化還元電位が137mv(注)を保っており、飲み水としては全国でもかなり高いレベルの飲料水となっております。

さいたま市消防局の全面協力を得て大規模災害訓練を行うなど、以前より災害への取り組みをしてきたため、今回の震災時もあわてることなく災害対策本部を設置し、通常業務が行えるような体制をとることができました。

今回の震災にて、計画停電の実施、節電においても患者さんにご協力いただき感謝しております。今後も余震等の影響や電力不足等でご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、上記の体制にて通常業務が行えるよう職員一同、努力して参りますので、よろしくお願いいたします。

(注) 飲み水として理想的な酸化還元電位は250mv以下となっております。当院の値は、東京・大阪の水道水565mv～750mvよりかなり安全で、六甲のおいしい水270mvの半分の電位であり、ピレネー山脈のルルドの聖水に近い値です。



本部の指揮をとる理事長、院長、事務長



自家発電装置
170KWH 2台 (計 340KWH)
6600V を発電



キュービクル (変電設備)



災害対策本部



自家発電装置内部



緊急時の説明をうける職員